

スモールコンセッションプラットフォーム

事業手法検討＋資金調達

第2回合同ワーキンググループ

議事概要

1. 日時：令和7年10月27日（月）14：00～16：00

2. 場所：国土交通省合同庁舎3号館、オンライン

事務局から過去議論の振り返りを行い、事業手法検討・資金調達における課題の整理と解決策の方向性について、コアメンバーによる意見交換を行った。コアメンバーからの主な発言は、以下の通り。

○ 課題と解決策の方向性(事業手法検討ワーキンググループ)

- スモールコンセッションの検討、実施が当たり前となる世の中を目指したときに、例えば指定管理者制度の黎明期においては、地方自治法の244条を拠り所として、事業化にかかる合意形成を進めることができた。対して、スモールコンセッションは根拠となる法令があるわけではなく、事業環境に応じて柔軟に検討を進める立て付けとなっている。そのため、適切な合意形成を図るために、手引き等にスモールコンセッションに関するルールなどを羅針盤として示すことが重要である。地方公共団体における合意形成が図りやすくなれば、おのずと民間事業者も事業化の波に追随すると考えられる。
- スモールコンセッション特有の検討事項として、手続きの簡素化が挙げられる。PPP/PFIのカテゴリとしてスモールコンセッションが位置付けられている中で、あえてスモールコンセッションを選択してもらうためには、通常のPPP/PFIに比べて事業化の手続きが簡単であるなど、何かしらのメリットを提示する必要がある。
- スモールコンセッションにおいて、民間事業者はマーケット性の薄い不動産に対して事業化を進めており、リスクが大きい。したがって、将来的な事業状況の変化に応じて柔軟に事業条件の段階的な見直しを認めるような仕組みがあったほうが良い。
- 手引きにおいてスモールコンセッションの概念が定義されることが必要である。その上で、一般のPPP/PFIと比較して、補助の対象となる、導入可能性調査が不要である、随意契約が可能である等、極めて大きなメリットを有する取組がスモールコンセッションであると謳うことができれば、スモールコンセッション専門の勉強会や相談窓口を設置することに意味がある。

○ 課題と解決策の方向性(資金調達ワーキンググループ)

- 資金調達において、基本的には、事業に事業性・採算性があることを前提として、金融機関に優先順位高く検討してもらうことが重要である。金融機関との交渉が上手くいかないパターンとしては、そもそも金融機関への相談が遅い、事業計画が甘い（例：稼働率が100%前提になっている、資金調達計画の根拠が薄い）といったことが挙げられるが、これは事業者側に知識・ノウハウがあれば対応できる。加えて、金融機関へスモールコンセッションに取り組むメリットを示すことも重要である。小粒案件のスモールコンセッションにおいて高収益という方向性は難しいため、社会的な意義をいかにアピールできるようにするかがポイントである。したがって、今後のワーキンググループの取組としては、事業者向けに金融機関に対する事業計画作成のポイントを整理すること、金融機関向けに金融機関が役割を果たした実績などをアピールする場を提供することが考えられる。
- 案件の川上から地域金融機関が関与することは非常に重要である。しかし全国の金融機関において、地域の民間事業者と案件の川上から関与することができるような関係性を築くことができる地域金融機関は少ない。足掛かりとして資金調達ワーキンググループにおける金融機関の会員を増やしていくことが必要な取組だと考える。関係機関・団体や地域プラットフォームを巻き込みながらムーブメントを起こすことが重要である。また事業計画を審査するだけではなく、川上から民間事業者と事業計画を共に練るような風潮を起こすことも有効な取組である。ワーキンググループにおける具体的な取組としては、すでに地域プラットフォームに参入している金融機関に参入を働きかけることなどが考えられる。
- 金融機関は地域のまちづくり案件に興味がないということは全くなく、むしろ地方創生等の観点から積極的に関与していきたいと考えている。一方で、これまで関与するにしても手弁当で行うことが一般的であったので、やはり何かしらのインセンティブ（補助制度）等あれば、より関与がしやすくなると思う。これは金銭的なものに限らず、国等から金融機関の支援ノウハウ習得に対する人的な支援（自治体に対する専門家派遣のようなイメージ）などもあってよいと思う。

○ 会員からのご意見

- スモールコンセッションの参入促進には、収入安定・リスク低減・事務費負担軽減・スケールメリット・間接価値の最大化の5点を組み合わせることが有効ではないか。
- より柔軟に小規模案件でも、小さいプレイヤーでも使いやすいような手法につながる議論を期待する。

以上